

# 令和5年度 小平市立小平第四小学校 学校評価報告書

**学校教育目標** 教育基本法等の諸法規に則り、「他者と豊かにかかわり、知性を働かせ、明日を切り拓く子ども」の育成を図る。 ○健康な子 ○考える子 ○やさしい子 ○おこなう子

## 目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 『みんなの笑顔が輝く学校』（学ぶことに喜びを感じられる学校、他を思いやり心と心が通い合う学校、励まし合い助け合ってみんなの笑顔が輝く学校）  
 【目指す児童・生徒像】 「健康な子：心身ともに健康で、毎日の生活を充実させることができる子」 「考える子：課題解決に向けて、主体的・対話的で深い学びができる子」  
 「やさしい子：自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる子」 「おこなう子：目標をもち、主体的に行動することができる子」  
 【目指す教員像】 「明るく、元気で前向きな教師」「授業実践力等を磨くために、絶えず自己研鑽に励む教師」「児童への愛情を十分に注ぎ、職務を全うできる教師」「同僚、保護者、地域と協働し、児童のために全力を発揮できる教師」

## 前年度までの学校経営上の成果と課題

(課題) 一定の児童に依然として基礎的・基本的な学力の定着が十分ではない傾向が見られる。主体的・対話的で深い学びの学習指導の在り方のさらなる追究及び個の状況に応じた指導(補習・家庭学習)の工夫が必要である。  
 (成果) 学習者用端末の活用について、全教員が統一見解をもって進めたことで児童の学習意欲やスキルを高めた。生活指導についても、組織的な発見力や対応力が高まり、問題行動が減り、落ち着いて集団生活ができるようになった。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	四小検定や読書に親しむ習慣を身に付けさせる取組、週1回の補習、家庭学習等を通して意図的・計画的な反復練習に取り組み、基礎学力の向上を図る。	3	4	補習や家庭学習を通して、計画的に学習内容の定着を図ることができつつある。一人一人の児童の学習状況に鑑みてスモールステップで学力を身に付けることができるよう継続指導していく。	3	4	教員は、授業だけでなく、補習や家庭学習等を通して児童の学力が向上するよう努めている。学力調査で明らかになった課題への改善指導を行うとよいのではないかと。	各学年概ね目標を達成することができた。学力の低い児童や学習意欲が低い児童については、各児童の状況に応じた形で学力が身に付くように課題を設定し、学習指導に当たる。
	校内研究では国語の学習指導の工夫を中軸に据えながら学力向上を図る。また、校外での研修会を通して自己研鑽に励み、学んだ内容をすぐに授業改善に生かす。	3	3	校内研究では国語の読み取りの力を高める研究を進め、授業UDの視点の重要性に気付くことができた。実践検証を重ね、さらに研究を深めていくことが課題である。	4	3		校内研究では国語の読み取りの力を高める研究を進め、授業UDの視点の重要性を認識することができた。次年度は、国語の文学作品のみでなく説明文等に研究を広げたり他教科への応用の可能性を探る。
健全育成	「四小スタンダード」や「月目標」について定期的に自己評価を行い、結果に基づく主体的な取組を促す。	3	4	「四小スタンダード」について、周知の徹底することが課題である。2学期初めに改めて確認し共通認識のもと指導に当たることができるようになる。「月目標」の振り返りを月半ばに一度行い、月後半の意識付けをめざす。	4	3	「月目標」の振り返りの方法は有効であり、児童の意識付けにつながっていることが分かる。いじめについては、引き続き、早期発見・早期解決を期待する。	「四小スタンダード」については、折に触れ児童や保護者と確認し、児童に振り返らせるようにする。「月目標」の振り返りを月半ばにすることで意識付けを行うことができ、児童が主体的に取り組むことができたので、次年度も継続実施する。
	いじめ防止授業の実践と定期的ないじめ調査を行い、実態を把握して指導に生かす。「いじめ見逃し0」を継続する。	3	3	いじめ防止授業の実践と定期的ないじめ調査を行い、トラブルが起きた際は、迅速に対応し、早期解決に努めることができている。後期もこの取り組みを継続し「いじめ見逃し0」を維持する。	4	3		「学校いじめ防止基本方針」について教職員全員で共通理解を図り、保護者にも周知し、連携・協力を依頼する。いじめ認知は積極的に行い、組織で迅速に対応する。一人一人の児童が安心して学校生活が送れるよう努める。
健康・体力保持増進	目標値を設定して体力テストに取り組みんだり、体力アップチャレンジ月間(縄跳び、持久走)及び業間体育等の体育的活動の取組を充実させたりする。	3	3	体力・運動能力の向上を図るため、長縄月間、持久走月間を実施し、児童の運動量を増やすことができた。引き続き、児童が外遊びを意欲的に行い、体を動かすことができるような仕掛けを工夫していく。	4	2	児童の体力面で課題はあるが、それを解決するために教員は指導の工夫をしていると理解できる。保健等の指導や取組、配布物による啓発も充実していることが感じられる。	体力向上をめざした強化月間も充実した活動を行うことができた。一方、児童の遊びのバリエーションが少ないため、工夫して運動していることについての児童の自己評価に若干の低下が見られた。今後はさらに、児童に様々な遊びを体験したり、楽しみながら運動に取り組んだりする機会を設けていく。
	保健の授業や保健便りを活用して、自己の健康について振り返る習慣を身に付けさせる。	3	4	保健の授業や保健便り、計測時の保健指導等を活用して、自己の健康について見直す機会を計画的に確保することができた。2学期始めに「生活リズム週間」を設定し、規則正しい生活を意識する取組を行った。効果が見られたので、3学期初めにも行う。	3	4		担任と養護教諭が必要に応じて連携し、保健の授業や保健指導等を行ったことで、児童が自己の健康について振り返る習慣を意識付けることができた。食育の観点からも、自己の生活について振り返る取組を実施することができた。
地域連携教育の推進	地域教育コーディネーターと連携し、ゲストティーチャーや地域教育ボランティアを意図的・積極的に活用し、体験的な学習を展開する。	4	4	コロナ禍で中止または縮小していた体験的な学習を徐々に復活させることができた。地域教育コーディネーターと連携を密にしてよりよい学習活動の在り方を探ることが課題である。	4	4	学校支援チームや保護者、地域の方にご協力いただき、充実した活動ができています。本校の強みであると感ずる。	ゲストティーチャーや地域教育ボランティアの協力を得て、各学年、充実した体験活動を行うことができた。教員や児童に加え、保護者にも地域の力を活用した活動の価値が伝わっているため、今後も継続実施していく。
	学校支援チーム(ナラミースタッフ・学童農園)との連携教育活動を通して、児童の興味関心や知識の向上を図る。	4	4	学校支援チーム(ナラミースタッフ・学童農園)と連携して行う体験的な学習を計画通り行うことができています。今後も、地域連携を密に行い、安全にも配慮しながら継続実施する。	4	4		どの学年も充実した体験的な学習を行うことができた。今年度の取組を振り返り、成果と課題を整理してよりよい活動のあり方を探っていく。
業務の改善・働き方教職	提案文書配布は原則メールや掲示板を活用して周知し、会議時間と勤務時間の短縮し、業務の改善を図る。	4	4	会議時間を意識しながらデジタルを活用して、効率よく行うことができています。業務軽減につながっているものの、デジタル化に伴い見落としや確認不足がないようにすることが課題である。必要に応じて声掛けも行う。	4	4	各種取組が、教職員の働き方改革の成果につながっているようで好ましい状況と思われる。今後も各種業務が教職員の過負担にならないように取組を進められるとよい。	メールや掲示板による情報共有が習慣化され、業務軽減につながっている。一方、共有された情報と実施時期が一定期間、間が空く場合は、リマインドを行うことで着実な実施をめざす。
	業務改善について教職員の意識改革を図るとともに、SSSを活用し、週当たりの在職時間が60時間を超えないように努める。	4	4	SSSを積極的に活用し、教職員の業務軽減につながっている。今後も、出張時の直帰や定時退勤を推奨し、勤務時間を意識した働き方を呼びかける。退勤が遅くなりがちな教員には個別に声を掛けていく。	4	4		大きな学校行事の前や成績関係で多忙な時は退勤時刻が遅くなりがちな教員がいるが、ライフワークに合わせて出退勤をコントロールできている。今後も各種バランスを意識した働き方を進めていく。